

ミックス依頼用、パラデータ作成法 (歌ってみた用)

パラデータを作るときのチェックポイント

①ファイルや曲の情報を伝えよう

サンプリング周波数、曲のテンポ(BPM)、タイトル

例えばフォルダ名を、

「○○○(タイトル)_ParaDATA_48k_bpm128」

というようにするとわかりやすいです。スペースは使わずに、半角のアンダーバーを使います。Mac使用の場合、全て半角英数のが良いでしょう。Winで開いた時に文字化けする可能性があります。

*曲ごとにフォルダを作ってwavファイルを入れ、Zipに圧縮してアップロード

*48kHz、24bitでのレコーディング&パラデータ作成推奨

【使用するオケ(オフボ、カラオケ音源)が44.1kHzの場合はレコーディング前に変換する】

②各wavファイルの頭を揃えよう

DAWソフトで書き出しする場合に、**全て頭から書き出す**ように設定。

*CUBASEの場合、全ての波形を**最後から頭まで選択**し、Audioメニューの、

「**選択イベントから独立ファイルを作成**」コマンドで、Audioフォルダの中に1本書きされたファイルが一気ににできます。この場合プラグインを外す必要なし。

(打ち込みで、ソフト音源を使っている場合はオーディオミックスダウンを使用)

③同じパートは同じトラックで

例えばメインVocalのパートで、Aメロ、Bメロ、サビ、2A...等のファイルがバラバラにならないよう一本にする。1つのファイルで。

(クロス(重なる)場合は分ける)

*オケ(オフボ)をずらした場合は必ずオケも一緒に書き出す！

④ファイル名をわかりやすく

トラック名がそのままパラデータのファイル名になる場合が多いので、あらかじめ録る前に書き変えておくと良いです。

例：Vocal、Hamo_hi、Hamo_Lo、Cho1_Hi、Cho1_Lo、Fake、Voice、Shout などなど...

⑤エフェクター(プラグイン)はかけない

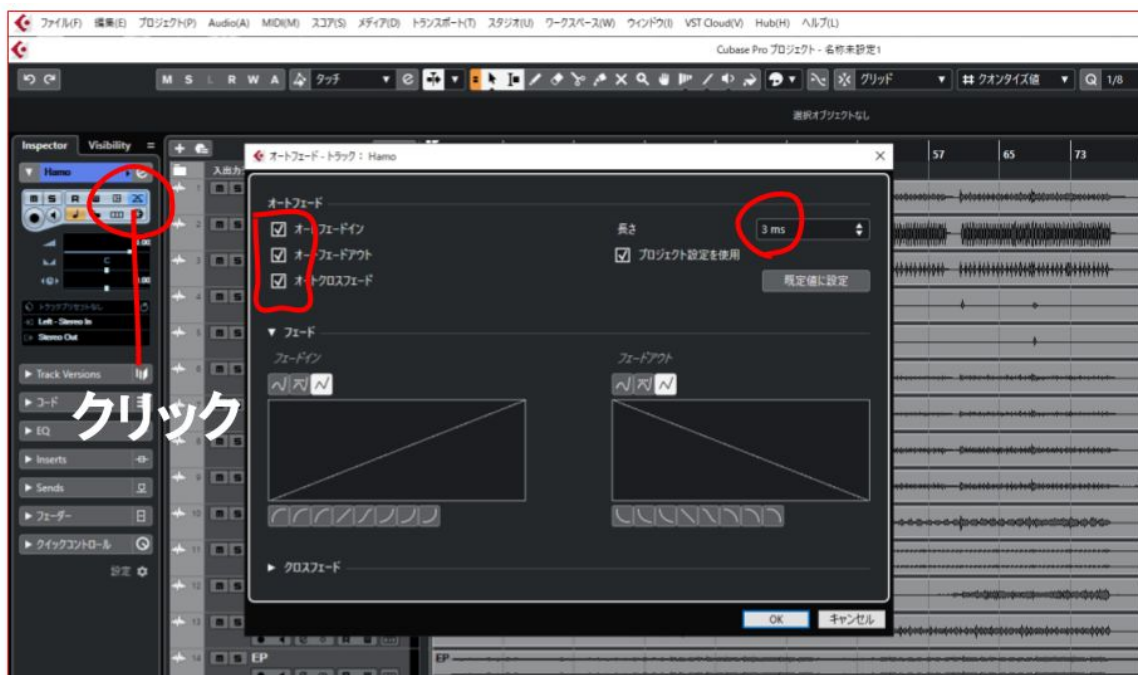
基本的にEQ、コンプ、リバーブ、ディレイ等は全て外し、フェーダー、PANは既定(0dB、センター)のまま書き出してください。

*CUBASEの「選択イベントから独立ファイルを作成」や、Pro Toolsの「レンダリング」を使う場合は、ミキサーを通らずにwavファイルができるので気にしなくてもいいです。

⑥つなぎ目がある場合は全てクロスフェードをかける

これをしないままパラデータを作ると、プチっというノイズ原因に。

*CUBASEの場合、下記の「X」マークをクリックして設定すると全てのトラックに適用されます。



⑦オケはステレオ、ボーカルはモノ

ボーカルやハモはパラデータも**Mono**で！

各DAWソフトで、作成するパラデータを**ステレオ**か**モノラル**にするか設定可能。

まとめ

各トラック頭をそろえて1本書き

つなぎ目でノイズが出ていないか

オケ以外モノラルファイルになっているか

基本1パート1ファイル

エフェクターがかかっているか

ファイル名やタイトル、テンポ、サンプリング周波数の表記

曲ごとにフォルダを作って、Zipに圧縮

確実なのは、Mix依頼する前に渡すデータを自分でDAWソフトに取り込んで確認すると良いと思います。